

会 議 録

会議の名称	令和元年度 第1回 豊中市産業振興審議会		
開催日時	令和元年（2019年）5月31日（金） 10時00分～ 11時35分		
開催場所	豊中市立生活情報センターくらしかん 3階 体験学習室	公開の可否	可・不可・ <u>一部不可</u>
事務局	都市活力部 産業振興課	傍聴者数	2人
公開しなかった理由	会議の冒頭に、案件2「中小企業振興部会の報告について」は、報告内容が豊中市情報公開条例第7条第3号の規定に該当するため、非公開とすることが、出席委員全員の総意として決定されたため。		
出席者	委員	東委員、梅村委員、加賀委員、金川委員、北村委員、中世古委員	
	事務局	長坂都市活力部部長、藤家都市活力部次長、高島産業振興課長、 良本課長補佐、成瀬副主幹、田中主査、多田主事、島村	
	その他	（業務委託先）（有）協働研究所 与那嶺、濱名	
議題	(1) （仮称）豊中市 新・産業ビジョン策定に係る基本的な考え方の諮問について (2) 中小企業振興部会の報告について (3) その他		
審議等の概要 （主な発言要旨）	別紙のとおり		

令和元年度 第1回 豊中市産業振興審議会 会議録（要旨）

日 時：令和元年5月31日（金）10時～11時35分

場 所：豊中市立生活情報センター くらしかん 3階体験学習室

出席者：加賀会長、梅村委員、東委員、金川委員、北村委員、中世古委員

1. 開会

- ・資料の確認
- ・審議会の成立確認（過半数の出席）
- ・「案件2. 中小企業振興部会の報告」についての非公開を決定
- ・前回のふりかえりについて説明（参考資料1）

2. 案件

（1）（仮称）豊中市 新・産業ビジョン策定に係る基本的な考え方の諮問について

- ・（仮称）豊中市 新・産業ビジョン策定に係る基本的な考え方の諮問を市長から審議会に行う。
- ・部長が諮問書を読み上げ、部長から会長に諮問書を手交

（事務局）

- ・資料1、2、3の説明

（会長）

- ・本日、委員2名が欠席ということで、事務局は何か意見を聞いているか。

（事務局）

- ・欠席委員2名からの意見を報告。
 - 「女性は教育に関心を持っている人が多いので、教育も産業振興のテーマとしてはどうか。女性の就業先としてプレスクールといった教育関連産業も考えられる」
 - 「最近では空港自体が観光地化されているところもあるので、大阪国際空港も観光地化して活性化するという方向性があるのも良いのではないかな」
 - 「事業所が集まっている南部地域の活性化を図るには拠点が必要ではないか。事業所が自由に利用できるラボのような施設があれば地域としての魅力も高まると思う」
 - 「潜在的な労働力として女性を捉えるのであれば、女性が働ける、または起業できる環境づくりが必要である。スタートアップ企業向けの家賃補助も必要だと思われるし、対象となる女性に対しての広報等で他部局との連携も必要ではないか」
 - 「スタートアップ企業を増やすという目標を立て、創業支援を行おうとした場合、創業しようと考えている人、つまりターゲットを探すのは難しい。実際には創業したいと考えている人だけにアプローチするのではなく、創業することに関心をもっているような人が集まる場所にアプローチした方が良いのではないかな。大学には学生起業家をめざす人もいますので、大学と連携して学生にアプローチしていくのはどうか」
- ・といった意見があった。

（会長）

- ・ただいま報告にあった意見の他、忌憚のない意見や、資料についての質問をお伺いしたい。

（委員）

- ・資料2の「市を取り巻く外部環境、内部環境からみえてきたキーワード」という所は、事業者へのヒアリングで見えてきたということだが、ここで2つ質問がある。

- ・「職住近接の需要の高まり」というものがある。ものづくりの世界では逆の方向が一般的な考えだが、実際に「需要の高まり」とは、ヒアリングの時にどのような話があったのか。
- ・もう一つ、「豊中市の特徴」で「事業者間ネットワーク」というのがある。これは産業集積が地域の中で望ましいとしているが、形として表に出てくることは少ない。可能な範囲でヒアリングの内容について教えてほしい。

（事務局）

- ・「職住近接」については、小売業の方から、千里中央地域のポテンシャルや北大阪急行延伸の影響について、ヒアリングの中で、「職住近接が進む中で、千里中央エリアには駅前にオフィス機能もあり、職住近接の街である。他の住宅都市とは異なるところである」という意見があった。
- ・「事業者間ネットワーク」については、ベンチャー創業者から、「近隣事業者間で複数のコミュニティがあり、お互いに紹介し合う関係性ができている」という意見や、他の団体からも、「メリット、アイデア、成長につながることで、とくに異業種と話をするとアイデアが出やすい。横のつながりができると情報交換ができて、それぞれ紹介し合うことができている」との意見があった。
- ・行政に求めることとして、「事業者間のつながる場をつくってほしい」という意見もあった。

（委員）

- ・千里中央地区は豊中市南部とは大きく異なる形になっている。千里中央地区は素晴らしい環境になってきていて、所得層の高い方が住んでいるし、企業も集積しだしているという環境を、市はどのようにしようと考えておられるのか。南部との比較でお話したい。

（事務局）

- ・「エリアの特性を活かした支援施策」について、千里地域は職場・商業施設・住宅・交通が充実しており、新規投資が先行しているといった地域の特性を活かしたまちづくりをめざしていきたい。南部地域は、南部コラボ構想や南部地域活性化構想がある中で、事業者間のつながりといった特徴を活かし、産業振興、新規投資、活性化につなげていけたらと考えている。

（委員）

- ・昨今エリアマネジメントという考え方が注目されている。産業振興を進めていく上で、地域の特性をきちんと把握した上で、そこをどう伸ばしていくのかというのが大事だと思っている。マイナスをプラスに転じていくのはものすごい努力が必要だが、千里地区というのはプラスの部分が多くあるため、施策展開が行いやすい。
南部は、これからの伸びしろが満載という点ではプラスと考えられる。このように、エリアマネジメントの考え方を導入して、産業振興策の基盤にしていけたらと考えている。

（会長）

- ・資料2でエリアごとの特性をあげているが、地域の特性を活かした産業振興策が、必要であるという意見だったかと思う。他にはいかがか。

（委員）

- ・資料に関して、キーワードやデータを提示して、内容を理解しやすくしていただければと思う。例えば、地域ごとに、それぞれの産業の特徴、労働力の確保方法、市の役割が示された表の資料があればわかりやすい。
- ・二点目は、やや矛盾するが、地域ごとの特性が分かったとしても、豊中市が作っていくべきは地域ごとの振興策ではなく、地域と地域を結びつけるという発想に基づいた施策だと思う。

大阪でのビジネス需要の上昇とともに、地価も上がっている。豊中に来たいという人にアピールしたり、既に千里中央に会社を構えているところにも空港の近辺や南部にも拠点を構えてもらうというように結びつけていくという作業が必要だと思う。

つまり、第一段階で地域ごとの特性を表にさせていただき、第二段階でそれをどう結びつけていくかという検討が必要だと思う。4つの基本方針は分かるが、地域と産業をどの観点から結びつけるのか、具体的にどのような施策内容にするかを検討いただき、それを基に我々も考えていきたいと思う。

(会長)

- ・ただいまの意見は、基本方針3の「豊中市の特徴、資源を活かした産業振興」にも関係してくる観点である。地域の特性を明らかにするには、表という形で、エリアと地域ごとの産業の特徴を整理していくことを提言いただいたかと思う。資料2右側に「豊中市産業のめざす姿」、「基本方針」を4つ挙げていて、この文言は言い換えることも必要になってくるかと思うが、この考え方についての意見はあるか。

(委員)

- ・「豊中市産業のめざす姿」は、理想的なビジョンということだと思うが、この文言を聞いた側が、どんな状態が理想形かをビジュアルでイメージできるような表現が必要だと思う。副題的に書かれている「新たな事業者と居住者を呼ぶ好循環をめざす」はなんとなくイメージが湧くが、その状態である「中小企業支援」「産業振興」「まちづくり」という3つのキーワードについては、ただ単に並列で並んでいるという印象を受けるので、これはどういう意図をもって書かれているのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・「豊中市産業のめざす姿」と「基本方針」については、昨年度行った産業状況調査の中から見えてきたこと、そこから導き出された内容を基に、「案」として提示している。事業者に話をお聞きした中では、住宅都市・教育文化都市という特性を活かすことによって、産業振興を図っていくことが最終的にまちづくりにつながるというような意見を多くいただいた。中小企業支援に関する産業振興を考えていくと、それが広くまちづくりにつながって、新たな事業者と居住者を呼ぶような好循環になるのではないかと考えている。この循環によって目標を達成するということを表現した。

(委員)

- ・個々の事業者支援を進めることが産業振興につながり、その結果、まちづくりに発展するということか。そうすると到達点というのはむしろ「新たな事業者云々」の方が、ビジョン・理想的な状態を示している文言という理解で良いか。
- ・キーワードが並列になっていると行間の受け取り方が人によって異なる気がする。市としてこうありたいというビジョンは、できるだけ共通のビジュアルイメージが浮かぶ形にした方が良いと思う。

(会長)

- ・めざす姿の文言で一番何を言いたいかについては、先ほどの質疑を伺っていて、生活に関わる産業の広がりということの前に、住宅都市の魅力向上がベースにあるというところがある。今のところは考え方について、これで良いのかどうかを併せて考えていただいて、またご意見いただければと思う。

(委員)

- ・資料2の「基本的な考え方」の中に、潜在的な労働力として「女性・高齢者」がキーワードとしてあるが、M字カーブの資料などを見ると、女性の潜在的な労働力に期待しているように思う。一方、高齢者についての記述が基本方針にはないので、潜在的な労働力として女性だけに期待しているのではないかという疑問がある。豊中市では、女性の潜在的な労働力よりも高齢者の方が期待できるのではないかと思っている。
- ・豊中市の女性が豊中市で働きたいと思っているかという点、疑問に感じる。「働きたい

場所が豊中市にはない」とよく聞くので、なぜ女性の労働力にこだわっているのか疑問に思う。

- ・潜在的な労働力が動き出すきっかけとはどういうものか。どうしたら潜在的な労働力である女性が動き出すのか。専門家の先生にお聞きしたい。

(会長)

- ・潜在的な労働力として女性しか見ていないのかというご意見だと思う。潜在的な労働力についての趣旨説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・潜在的な労働力としては、女性・高齢者・外国人の方など様々な可能性があると思う。今後、計画を作るにあたり、潜在的な労働力として、他にどういったものが考えられるのか、どういった方向性で打ち出した方が良いのかも含めて、内容を考えていきたい。
- ・今回、潜在的な労働力として、「女性」を特出ししているのは、以前も委員から話があったが、豊中の特徴を捉えた時に、労働力としての女性の社会進出が進んでいないからである。女性の社会進出を、どのように増やしていくかという点も産業振興を考える上で、必要と考えている。働きたくても働けないのか、働く必要がないのか、前提条件は複数考えられるが、「働きたい場」がないというのであれば、「働きたい場」を深掘りし、労働時間を短くして労働環境を整える必要性が明らかになれば、新たな施策を展開することで、女性の社会進出を促していくことも必要と考える。
同様に高齢者についても、非常に豊富な経験を持ち、働きやすい環境さえあれば働きたいという人に対しては、「どのような施策であれば活躍できるか」という視点も産業ビジョンの中に盛り込んでいけたらと考えている。

(会長)

- ・潜在的な労働力をどう顕在化していくかという点に関しての趣旨説明を、専門の委員からお願いしたい。

(委員)

- ・私は経済学者ではないが、経済に関する研究の紹介をしておく。女性が働く際の決定的な要因は、世帯の所得が落ちたときである。働かざるを得ない状況に置かれることが、きっかけになる。もう一つは子育てがひと段落したときであり、M字カーブとも重なる。子育てがひと段落したといっても、10時～16時の労働時間で働ける、事務仕事自宅近くにたくさんあることが条件になる。
- ・これらの結果を豊中市に当てはめた場合に、女性が求める条件に見合ったところがどれほどあるのかが大きな問題である。女性の社会進出だけに焦点を当てることは、確かに奇異に感じられるかもしれないが、実質的にまだ労働市場に出てきていないボリュームゾーンとしては、女性の労働力が一番大きい。
引退された方は、65歳の時は身体も元気だが、10年後は健康上の問題を抱えている場合が多い。そういう意味では、高齢者に期待できるかということ、難しいと言わざるを得ない。そこを踏まえて、豊中ではどうするのかということを考えていかないといけないと思う。

(委員)

- ・私が知っている、尼崎市の「ものづくり会社」は、人材不足の対策として、女性の採用に力を入れている。委員の話の中にあった、女性が働きやすい時間である、9時～15時、10時～16時というフレキシブルな就業時間にも関わらず、給料は変わらないという就業形態を導入している。その結果、最近では女性の就業率がとても高まっている。現場でも、女性がものづくりをすることを想定し、重たいもの、熱いもの等を扱わない加工を担当してもらう等の工夫がされている。
- ・その会社がどう動いていくかという形の表れであり、こうした考え方は非常に大きな要素であると思う。こうした動きは行政が政策的にできるものではないが、企業活動

の中で考え方を広めていくことが大事であると思う。

(会長)

- ・私が勤務している大阪大学の吹田キャンパスは、事務職員にかなり優秀な女性が多い。それこそM字カーブのMの下やMの終わりかけに該当する方が採用されている。大学というのは一つの大きな事業所であり、事務職員を採用する受け皿になっている。
- ・もう一つは、タイムシェアのような仕事の仕方も考えられるのではないか。例えば、中小企業において、一人分の事務仕事を、二人、三人でシェアしてやっていくという仕事の仕方を導入することも、労働環境整備の一つの形と考えていける。

(委員)

- ・私は、事業者側や経営者側の話を聞くことが多いが、女性の就業を受け入れる体制をどう作っていくかについて、企業側に啓蒙していく必要があると思う。女性は体力差により、男性と同じ作業ができないこともあるが、工程の細分化や、業務プロセスの見直し等によって、対応できる職務を広げていくこともできるだろうし、実際に取り組みをされている企業も増えているように思う。
一方で、就業規則や環境を企業の側が整備するということも併せて必要となってくる。女性の就業が促進することによるいい面と、企業としてどのような受け入れ体制を持っていなければならないかという、知識や情報の発信も同時に必要になってくると思う。

(会長)

- ・他にも基本方針の「新たなチャレンジを促す環境」や「都市経営、まちづくりのエンジンとしての産業振興」について、何か意見はないか。

(委員)

- ・「基本方針に沿った施策展開」について、中小企業庁などが取り組む国・府の政策動向で、参考資料についている「事業承継」が、ビジョンの中に全く盛り込まれておらず、最後の「業種・業態に即した支援施策」でも触れられていない点に疑問がある。
- ・関東の都市では行政単独でマッチングサイトを作っている話があった記憶がある。豊中には富裕層がいるので、例えば、定年を迎えたサラリーマンが起業しようとした時に、ゼロベースでの起業は厳しいが、既存の会社を買い取り、経営するというのであればできないことではないし、需要もあると思う。
具体的な文言として基本方針に盛り込むことはできないかもしれないが、検討課題として、例えば基本方針の1番の欄に、事業承継やM&A的な分野の考え方も盛り込んでいただいた方がよいのではないかと思う。

(会長)

- ・確かに社会経済情勢の欄には「事業承継の課題」が挙がっており、「中小企業チャレンジ促進プラン」を検討する中では事業承継の問題はかなり議論されていた。
このキーワードを基本方針に盛り込んでほしいというご意見だと思うので、先ほど委員からもあったように、「基本方針」の1番の欄に事業承継問題を入れるかどうか検討させていただきたい。

(委員)

- ・「豊中市産業のめざす姿」の欄で、「生活に関わる産業」と書いてあるが、これは何を指しているのか。

(事務局)

- ・「生活に関わる産業」は「製造～卸売～小売といった、「もの」が消費者の手元に届くまでの全ての産業」ととらえている。企業立地促進計画に基づき、製造業などを西部や南部地域に誘導しているが、その他の地域でも関連産業を活性化できればと考えている。

(委員)

- ・東京大学名誉教授の神野直彦先生が「生活というものを産業政策の基本とすべき」と著書に書かれているので、そういう意味かと思った。
- ・他の自治体で産業振興の話をしている時に、生活という観点から、人口減少で学校の統廃合が進み、教育環境の再整備が必要であるという話があった。生活に関わる産業では、塾や習い事といった産業が、地域の魅力づくりにつながるということであった。こうした分野についても、今後含まれているのか聞かれることも多くなると思う。

(会長)

- ・「生活に関わる産業」とはどういうことかを確認・共有しておく必要があると思う。
- ・基本方針の4番で、「都市経営」という言葉が挙げられている。この言葉では、広い考え方になるかと思うが、どういう意味合いからこの言葉が使われているのか、事務局に確認したい。

(事務局)

- ・これまで豊中市は、民間事業者との連携によりまちの活性化を行ってきた。今後も行政だけではなく、民間事業者のノウハウやまちづくりの手法なども取り入れて公民連携で事業を行っていききたいということを「都市経営」という言葉で表現している。

(委員)

- ・「基本方針」の4番だけは内容というより進め方についての記載であり、官民連携や公民連携が突然出てきて唐突な印象がある。まちづくりのエンジンとして産業振興が重要だというのはよく分かるが、進め方の話が突然出てくる感じであり、もう少し丁寧に説明してほしいと思う。

例えば、先ほどの女性の話では行政ができないことがある反面、保育園を充実させるとか、行政にしかできないこともある。子どもを預けるだけでなく、英語を教える等の付加価値をつけている保育園が東京では人気になっている。基本方針の1・2・3を実現するためにどうしていくかの進め方が4番であるのであれば、もう少し丁寧に4番を深掘りした方がいいのかなという印象はある。

(会長)

- ・「基本方針」に書いてある内容は、1・2・3はそれぞれの方針で、4番はどのようにやっていくかという方法についてのことを指しているのであれば、4番の書き方は少し考える必要があるのではないかという感じがする。

(委員)

- ・「都市経営」と「まちづくり」は同義か。
- ・私も行政に携わっていたので、「都市経営」と「まちづくり」は、近いイメージを持っている。様々な自治体のプランニングを見ていると、最近は「まちづくり」の方が市民主体になっているようだが、たぶん多くの自治体職員の方は、政策形成の中でイコールに近い形で考えていると思う。

(会長)

- ・「都市経営」は、ここでは行政の立場で都市（地域）を経営していくという観点になる。「まちづくり」は、様々な立場の方々が公の場で計画していくという観点であると私はとらえている。そういう意味では「都市経営」と「まちづくり」は、違う意味の文言が並んでいるという印象がある。
- ・「まちづくり」を考えながら、どのような形で産業振興をしていけばいいかということを考えておられるということは分かるが、文言として市民に対してどう示していくかということ考えると、もう少しわかりやすい表現を考えていく必要があると感じる。
- ・今日は資料2の「豊中市産業のめざす姿」の考え方と「基本方針」の考え方について、表現の仕方はこれから要検討というところもあるが、これは違うとか、このような意見やキーワードを盛り込んだ方がいいという視点でも意見をいただければと思う。

(委員)

- ・共感するところは、「豊中市産業のめざす姿」の所で「産業振興」と「まちづくり」を並列で書いていることである。自分の研究からもこれは素晴らしいと思うし、ここまで言い切っている自治体はたぶんないと思う。「操業・労働環境を守っていく」「仕事をする」ということを「まちづくり」という観点から考えていくことは、私は大事だと考えているし、豊中市はその先駆性が高いと考えているので支援したい。

ただ、文言の使い方や順番は、皆さんのご意見にあったように、少し考えていただく必要があると思う。

(会長)

- ・「まちづくり」の要素を加えて進めていくことはとても大切なことだと思う。産業振興を考えていくには、産業支援だけでなく、地域政策や労働環境なども含めて考えていくこと、それは「都市経営」という観点から関わってくると思う。
- ただ、文言としては今後考えさせていただければと思う。委員と考え方では重なる。

(委員)

- ・「豊中市産業のめざす姿」を虚心坦懐に普通に読んでいくと、たぶん「好循環」で「産業振興」して「まちづくり」という順番になる。豊中市としては、居住者にただ来てほしいというわけではないと思う。

そう考えると、先ほど委員もおっしゃったように、既存の中小企業を守ることと新たな事業者に来てもらうこととを組み合わせれば、何かの好循環が生まれ、新たな事業者が、またさらに新たな事業者を呼んできてくれる。そうすると事業承継も安心だということで、活力が現れ、まちづくりとしてもうまくいくということなので、並列で書かれるよりも因果関係を明記されたらいいと思う。

- ・豊中市の産業としてめざす姿は、好循環によるまちづくりで、進め方の4番で、副題に書いてある記述などは、まさにめざす姿ではないかと思う。官民連携でやっていくこと自体はいいと思うので、組み換えをすれば、会長や委員のおっしゃっている話を具体的に表すことができるのではないかと思う。

(会長)

- ・「豊中市産業のめざす姿」の、新たな事業者と居住者の好循環は、「まちづくり」の方をメインにするという案、基本方針の4に公民連携をキーワードとして入れていくという案が、委員の意見から伺えたと思う。

(委員)

- ・意見というより素朴な疑問だが、市の南部では工場や事業所がなくなっていき、宅地化が進んでいるということだが、それは豊中市の産業振興とまちづくりにおいて、好循環といえるのか。

(事務局)

- ・工場というのは準工業・工業地域という工業系の用途地域にしか建てられない。南部はまさに準工業・工業地域であり、委員の話にあるように、実際に歯抜けになったところが宅地化している状況がある。今まで操業していた工場が抜けて宅地化されると、事業所と住民の間で、騒音・悪臭・振動等の問題が起こる可能性が高くなる。その結果、操業がしにくくなり工場が出ていき、出ていった跡地が宅地化されるという現実があり、残念ながら悪循環になっている。

これを防いでいくために、「企業立地促進計画」を策定して準工業・工業地域の中でも地域特性にそってゾーニングを行い、なるべく軋轢を起こさず、共存しやすく、操業しやすい環境づくりをめざし、緩やかに土地利用を誘導していくソフト・ハードの施策を豊中市も進めているところである。

(委員)

- ・この案を見ると「新たな事業者と居住者を呼び込む」とか「新たなチャレンジ」など

にフォーカスがされている。先ほどの事業承継や操業環境の維持の話もそうだが、今までのお話を聞いていて、いかに事業の継続性を担保できるかが重要だと感じている。チャレンジを促進するという前向きな部分も必要であるが、一方で土台となる既存の事業者を支援して、事業継続させるというニュアンスも必要ではないかと思った。この部分をキーワードとしてご検討いただけたらと思う。

（会長）

- ・「基本方針」で「事業の継続性」というキーワードは考えていく必要性があると思う。「基本方針」の1や3に含まれてくると思う。
- ・委員の皆様からいろいろご意見をいただき、「豊中市産業のめざす姿」「基本方針」について、キーワードや考え方をしっかり整理した方がよいということを伺った。整理した結果、書く順番なども大きく変わってくるかと思う。ここに書いてある内容そのものについて反対というご意見ではなく、こういう言葉を盛り込んだらとか、もう少し共有できるような追加情報が必要ではないかという話であったと思う。
- ・資料2の（仮称）豊中市新・産業ビジョンの基本的な考え方（案）の中で、先ほど申し上げた「豊中市産業のめざす姿」「基本方針」について、文言は修正するが、考え方としてはこのような方向で進めていくということによろしいか。

（委員）

- ・異議なし

（事務局）

- ・本日のご意見を参考にし、「豊中市産業のめざす姿」「基本方針」の文言については再検討し、「（仮称）豊中市新・産業ビジョン」の素案を策定していくので、今後とも当審議会でご議論いただくようお願いする。

（会長）

- ・続いて、案件2「中小企業振興部会の報告について」だが、本件については冒頭確認させていただいたとおり、非公開とさせていただくため、順番は前後するが、先に案件3「その他」について、事務局から何かあるか。

（事務局）

- ・事務局から2点事務連絡をさせていただく。
- ・1点目は、今年度第2回目の審議会を10月に開催する予定にしているので、日程調整にご協力のほど、よろしくお願いする。
- ・2点目に本日の会議録については、事務局で作成した案を、後日委員の皆様にご確認いただき、内容を確定させていただく。会議録の概要については、市のホームページなどで公開する。

（会長）

- ・続いて、案件2「中小企業振興部会の報告について」だが、傍聴の皆様には、ここで退出くださるようお願いする。

－傍聴者退席－

（２）中小企業振興部会の報告について

- ・委員よりの報告
- ・部会原案を市への答申とすることを決定

（会長）

- ・それでは本部会の意見を本審議会の意見として答申する。
- ・本日予定していた案件は以上で全て終了した。これで令和元年度第1回豊中市産業振興

審議会を閉会する。

以上